

諸家系譜

二
 辻 鶴 坪田 葛木 堤
 築山 常見

庫文閣内			
五 函	三 三 冊	三 三 冊	和 書 類

庫文官政太			
三 冊	三 三 冊	三 三 冊	和 書 類

内閣文庫		
番號	和	32649
冊數	225(159)	
函號	156	23

共二百廿五内

共六十五



つ
癸七源
冊

先祖書

子音
松平侯
先祖書

西丸新書
松平侯先祖
過右書

清和源氏

一

家改

一

家改

花久面以

家改

洲濱 花久面以

過去書卷の全書

久心

一

一

一

冊子

書

尾西系

神皇正統記... 尾西系... 久心... 冊子... 書... 尾西系...

神皇正統記... 尾西系... 久心... 冊子... 書... 尾西系... 久心... 冊子... 書... 尾西系...

一 正田合戦之由 左邊より逃ぐる者多し
右邊より追ふる者亦多し 是れ其由也
正田合戦之由 左邊より逃ぐる者多し
右邊より追ふる者亦多し 是れ其由也

久昌 大島

母より居申共
書あり

之種より年終目

之種より年終目 左邊より逃ぐる

之種より年終目 左邊より逃ぐる
右邊より追ふる者亦多し 是れ其由也

相模國より少知白村

百八村即右より少知白村

之種より年終目 少知白村

九十九年未定に付

少知白村即右より少知白村

之種より年終目 少知白村

事今後如何に

之種より年終目

亥水二

亥水二 沖水

正田合戦之由

正田合戦之由 左邊より逃ぐる者多し
右邊より追ふる者亦多し 是れ其由也

正田合戦之由 左邊より逃ぐる者多し
右邊より追ふる者亦多し 是れ其由也

高懸 大泉

母之系 書 福澤安重丸 百回之信乃女

京水之信乃女 十行信乃女 中居信乃女

信乃女 信乃女 信乃女 信乃女 信乃女

信乃女 信乃女 信乃女 信乃女

森 信乃女 品昭書

信乃女 品昭書 信乃女

信乃女

品昭 大泉

信乃女 信乃女

信乃女 信乃女 信乃女 信乃女

信乃女 信乃女 信乃女

信乃女 信乃女 信乃女

信乃女 信乃女 信乃女 信乃女

信乃女 信乃女 信乃女 信乃女

信乃女 信乃女 信乃女

信乃女 信乃女 信乃女

信乃女 信乃女 信乃女

信乃女 信乃女

信乃女 信乃女

妻の事

妻の事

妻の事

妻の事

又此の事年々... 江戸入道... 孫... 祖

妻の事

母の事

母の事

母の事

又此の事年々... 江戸入道... 孫... 祖

初之入 物与子年

母有

正徳二年三月三日 申時 母有 初之入 物与子年

久暢

正徳二年 卯月

美文 長女

申時 初之入

美母 方 卯辰 申時 初之入

美子 卯辰 申時 初之入

正徳二年三月三日 申時 初之入 物与子年

正徳二年三月三日 申時 初之入 物与子年

美母 方 卯辰 申時 初之入
美子 卯辰 申時 初之入
正徳二年三月三日 申時 初之入 物与子年

女

正徳二年三月三日 申時 初之入

美母 方 卯辰 申時 初之入

女

正徳二年三月三日 申時 初之入

美母 方 卯辰 申時 初之入

美子 卯辰 申時 初之入

久雅

正徳二年三月三日 申時 初之入

母 重徳氏女

書 元徳三年乙酉 徳政九年壬辰 新後女

書 元徳三年乙酉 徳政九年壬辰

書 徳政九年壬辰 田村令子 恒幸女

秀宗 坊主御

御白

寛保九年三月廿一日
江戸 秀宗 坊主御

廿

御白

某 甲御

御白

有 坊主御

之 坊主御

言 坊主御

少 坊主御

相 坊主御

上 坊主御

御

中 坊主御

融と修身口と後 地多と一いつ沖かまうも二
を口行 左修身口には者一首とる面と
はじりてはと勸むらう言深のわらあそと
はくくもの地と指したるをうとまやと地
とてらうらう思ふに相くも空也りな地大け
ふり行のらるる 中と動中地とるうりては
をら肩のそりたは業深のらくくをたる有と
空の六は地とる 志は地の地めけらる地とら
りて時勸が動くも道は地とるはらる地と
も地とるはらる地とるもあらまの地とる
あらまの地とる地とる地とる地とる地とる
及のくは地とる地とるあめり地とる地とる
りて地とる地とる地とる地とる地とる

左修身口と地とる地とる地とる地とる地とる
地の地とる地とる地とる地とる地とる地とる
あま地とる地とる地とる地とる地とる地とる
りて地とる地とる地とる地とる地とる地とる
左修身口と地とる地とる地とる地とる地とる
とてらうらう思ふに相くも空也りな地大け
ふり行のらるる 中と動中地とるうりては
をら肩のそりたは業深のらくくをたる有と
空の六は地とる 志は地の地めけらる地とら
りて時勸が動くも道は地とるはらる地と
も地とるはらる地とるもあらまの地とる
あらまの地とる地とる地とる地とる地とる
及のくは地とる地とるあめり地とる地とる
りて地とる地とる地とる地とる地とる地とる

申上り
御用
御用
御用

江坂屋
御用
御用
御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用

澤姓

澤

藤紋

三原色

赤紋

白

角内三原色

家紋

三原色

碧紋

角内三原色

紅梅色 劫作

菊桐

正徳後分り成紋 牡丹折段 八分後

江以多系守紋三四分

守

三原色

三原色

母 澤の御類 長谷川前守の母利母

書 澤又河向ふ分り三原色女

明徳三申年上原

世系三申年上原

神田の長谷川前守の御類澤の御類澤の御類澤の御類

世系八申年上原の御類澤の御類澤の御類

之御類澤の御類澤の御類澤の御類澤の御類

備今更なる所後三

四年より一之松橋は橋屋へより舊地より

備所於上段より下段へ流す所は

備所より下段へ流す所は

備所より下段へ流す所は

備所より下段へ流す所は

備所より下段へ流す所は

備所より下段へ流す所は

備所より下段へ流す所は

備所より下段へ流す所は

備所より下段へ流す所は

備所より下段へ流す所は

才希 七知天

女 貞節 聖人女 嘉慶 昭聖 忠女 嘉慶

母 貞節 忠女

女 佛學 嘉慶 貞節 嘉慶 程節 嘉慶

母 貞節

女 成友 川湯 嘉慶 進定 嘉慶

母 貞節

女 嘉慶 井 嘉慶 乃 嘉慶

母 貞節

女 貞節

嘉慶 嘉慶 嘉慶 嘉慶 嘉慶 嘉慶

守肩 嘉慶

某 嘉慶

美 貞節

美 貞節 忠女

嘉慶 忠女 嘉慶 嘉慶 嘉慶 嘉慶

嘉慶 嘉慶 嘉慶 嘉慶

嘉慶 嘉慶 嘉慶 嘉慶

嘉慶 嘉慶 嘉慶 嘉慶

嘉慶 嘉慶 嘉慶

嘉慶 嘉慶 嘉慶

嘉慶 嘉慶 嘉慶

嘉慶

つ
法

五
法

ま
法
法

法
百
法
法

法
法
法
法

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

物産

通文

春達心若夢中一變之口物也

也

後漢書卷之九十四上

東越言 漢書卷之九十四上

漢書卷之九十四上

古歌後錄 只今伏達殿國以動

目之中心也

天後漢書卷之九十四上

行用之書 之進之後 由之而後
後水産産 以之信之 時之業 由之而後
不感産産 以之信之 業人 以之而後

有之之之

孝之院福 以之信之 業人 以之而後

之後 由之而後 此力 以之信之 業人 以之而後

由之而後

幕政 以之信之

幕政 以之信之

幕政 以之信之

之信之 業人 以之而後

之信之

之信之

之信之 業人 以之而後

之信之 業人 以之而後

之信之

之信之

之信之 業人 以之而後

之信之 業人 以之而後

之信之 業人 以之而後

之信之 業人 以之而後

高親 傳代御執事人御執事 少也御
執事人御執事人御執事 少也御
御執事人御執事人御執事 少也御
御執事人御執事人御執事 少也御
御執事人御執事人御執事 少也御

高親

母 今之世は江戸幕府

書 子行は御執事人御執事
三好は御執事人御執事

高親 傳代御執事人御執事 少也御
御執事人御執事人御執事 少也御
御執事人御執事人御執事 少也御
御執事人御執事人御執事 少也御

文 傳代御執事人御執事 少也御
御執事人御執事人御執事 少也御

御執事人御執事人御執事 少也御
御執事人御執事人御執事 少也御
御執事人御執事人御執事 少也御
御執事人御執事人御執事 少也御

以之少少... 下... 爲...
... 年... 之... 之...
... 後... 之... 之...

通任

正徳二年

母 口

女子

梅は

母 口

日支度様

少多...

... 年... 之... 之...
... 之... 之... 之...

女子

梅は

口

母 口

女子

女子
日新の徳を以て
り也

二二

女子

女子
日新の徳を以て

女子
日新の徳を以て

女子
日新の徳を以て

女子
日新の徳を以て

女子
日新の徳を以て

女子
日新の徳を以て

二六

江戸幕府

書

美文 江戸幕府 江戸幕府

書

美文 江戸幕府 江戸幕府

書

美文 江戸幕府 江戸幕府

書

美文 江戸幕府

書

江戸幕府 江戸幕府 江戸幕府 江戸幕府 江戸幕府 江戸幕府 江戸幕府 江戸幕府

書

江戸幕府 江戸幕府 江戸幕府 江戸幕府 江戸幕府 江戸幕府 江戸幕府 江戸幕府

二七

江戸幕府

書

美文 江戸幕府 江戸幕府

口下...
 口下...
 口下...
 口下...
 口下...

口下...
 口下...
 口下...

三三

大...

母...

口下...
 口下...
 口下...

女子

母...

母...

口下...

女子

母...

母...

母...

口下...

女子

母...

母...

女子

母...

母...

右の如くおぼしめす

之の如く
しるす

りたしめしるす

寛政十一年

辻三郎 宛

未だしるす
書及信あり

辻三郎
宛書。○ 坊間より

五平

フ

辻三郎宛書

辻三郎 宛

守貞

左様

書

守貞

書

守貞

書

守貞

書

守貞

書

女子

守貞

母

守貞

守貞

書

守貞

母

書

守貞

守貞

書

母

守貞

守貞

新書之旨趣甚深其旨趣之
深者其旨趣之深也

右心及心達之通心身順
生年唯之其德名其事也

呈後表

江戶在りて

意

江内屋物

源氏

中成之校

仁の美言之報を幸ふ戴字を以て
三校推す之を源氏と改めたり

辻

之理三校之各所存也

寛文六年己酉年、其書を以て改めたり

今世何れ在りて其書を以て改めたり

養正

三行色

景正

石白

碧正

蘭正

左字人成字中... 十代... 守尉

守尉

書

書

書

書

寛永... 己... 甲...

...

...

...

...

信長止跡後道意日記

守

久

廿

書

信長止跡後道意日記

信長止跡後道意日記

信長止跡後道意日記

信長止跡後道意日記

信長止跡後道意日記

信長止跡後道意日記
信長止跡後道意日記
信長止跡後道意日記
信長止跡後道意日記

信長止跡後道意日記
信長止跡後道意日記
信長止跡後道意日記
信長止跡後道意日記
信長止跡後道意日記
信長止跡後道意日記
信長止跡後道意日記
信長止跡後道意日記
信長止跡後道意日記
信長止跡後道意日記

守白と云ふは死に長

寛治六年壬午年八月二十日

守白の御書

守白の御書

守白の御書

守白

守白

守白の御書

守白

守白

守白

守白の御書

守白

守白の御書

守白の御書

守白の御書

守白の御書

守白の御書

守白の御書

守白

高下十一年... 漢地... 氏... 氏...

守貞

氏原氏

女子

久... 氏... 氏... 氏...

女子

中... 氏... 氏...

女子

加... 氏... 氏...

女子

氏... 氏... 氏...

守貞

氏原氏

美母

美父

美母

美

高下三

氏... 氏... 氏...

美父

ツ修... 今... 御... 行... 日... 今... 御... 今... 御...

リニ... 御... 御... 御... 御... 御... 御...

リ... 御... 御... 御... 御... 御...

リ... 御... 御... 御... 御... 御...

字子高

女 書

御... 御... 御... 御... 御... 御...

五月五日
りしとまき手にてまき流るる後
はゆき長つ流るる初は新羅野
りしとまき手にてまき流るる後

弘家

母

年回

言ふはまの年まきまき新羅野
高き流るる初は新羅野
母

母

年回

一はまの流るる後

言ふはまの流るる後

言ふはまの流るる後
りしとまき手にてまき流るる後

言ふはまの流るる後

言ふはまの流るる後
言ふはまの流るる後

つ
つ
つ

心願書

ま
ま
ま

つ
ま
ま
ま

つ
つ
つ

一 信長より足利義満に遺言するに及ばずして

信長は故に其の遺言に於ては自らの身代

於ては信長は其の遺言に於ては自らの身代

信長は故に其の遺言に於ては自らの身代

信長は故に其の遺言に於ては自らの身代

信長は故に其の遺言に於ては自らの身代

信長は故に其の遺言に於ては自らの身代

信長は故に其の遺言に於ては自らの身代

信長は故に其の遺言に於ては自らの身代

信長が遺言に於て

一 信長は故に其の遺言に於ては自らの身代
信長は故に其の遺言に於ては自らの身代
信長は故に其の遺言に於ては自らの身代

母

之類

信長は故に其の遺言に於ては自らの身代

信長は故に其の遺言に於ては自らの身代

常憲侯補給候ノ件事長ク御下知

幸甚御下知

百治ノ慶子年少ク幸甚御下知

早知御下知候事

今以御下知

字ノ御下知 女御下知 女御下知

日 二男 御下知

御下知 御下知

常憲侯補給候

御下知 御下知 御下知

御下知 御下知 御下知

御下知 御下知 御下知

御下知 御下知

御下知 御下知

御下知 御下知

常憲侯補給候

御下知 御下知

御下知

寛文十一年八月一日
信

也。此ハ屋敷年事ナリ。此ノハ成金ノ旨
之。此ハ屋敷年事ナリ。此ノハ成金ノ旨
之。此ハ屋敷年事ナリ。此ノハ成金ノ旨
之。此ハ屋敷年事ナリ。此ノハ成金ノ旨
之。此ハ屋敷年事ナリ。此ノハ成金ノ旨
之。此ハ屋敷年事ナリ。此ノハ成金ノ旨

之。此ハ屋敷年事ナリ。此ノハ成金ノ旨
之。此ハ屋敷年事ナリ。此ノハ成金ノ旨
之。此ハ屋敷年事ナリ。此ノハ成金ノ旨
之。此ハ屋敷年事ナリ。此ノハ成金ノ旨
之。此ハ屋敷年事ナリ。此ノハ成金ノ旨
之。此ハ屋敷年事ナリ。此ノハ成金ノ旨

字海書

口口口

有喜屋原汁代

山酒の味も亦之を味うるに似たり
昔々色も好ゆるに味も亦之に似たり
極楽の味も亦之に味うるに似たり
十の味も亦之に味うるに似たり
下酒の味も亦之に味うるに似たり
有喜屋原汁代
下酒の味も亦之に味うるに似たり
十の味も亦之に味うるに似たり
極楽の味も亦之に味うるに似たり
昔々色も好ゆるに味も亦之に似たり
山酒の味も亦之を味うるに似たり

中輝書

上慶平八年三月廿六日

口 通依 通依
口 二官 通依
口 三官 通依
口 四官 通依
口 五官 通依
口 六官 通依
口 七官 通依
口 八官 通依
口 九官 通依
口 十官 通依

口 通依

上慶平八年三月廿六日

字程書

之廣分母也

口海欣

洋書

口二力

法也之書也

取之書也

之廣分母也

口二力

法也之書也

口二力

法也之書也

口二力

法也之書也

一六代目

之廣分母也

母之廣分母也

法也之書也

法也之書也

口二力

法也之書也

法也之書也

法也之書也

法也之書也

口二力

右之通之書也

右之通之書也

法也之書也

つ
源新

源新

源新

源新
源新

源新
源新

源新
源新

守成

守成

之能人多信代以唯言言清字人掌大我
之校播广守守周後流云云守守守
早種之出亦種以村在後江都名種種是
以多通村在後江都名種種是
呼以海之南外之改種也

幕之改 云改在色之改
夾之改 云改在色
替之改 云改在色

守成

守成

守成

母 守成

書 守成

守成守成守成守成守成守成守成守成
守成守成守成守成守成守成守成守成
守成守成守成守成守成守成守成守成
守成守成守成守成守成守成守成守成

守成

守成

守成守成守成守成守成守成守成守成

書 希 嘉

山 口 年 廿 六

之 文 丁 巳 年 月 日 記 也 生

水 堀 之 年 年 介 武 田 信 玄 氏 也 乃 是

和 平 之 後 之 年 之 孫 也 武 田 信 玄 氏

之 子 也 武 田 信 玄 氏 之 孫 也 武 田 信 玄 氏

武 田 信 玄 氏 之 孫 也

武 田 信 玄 氏 之 孫 也

神 戶 之 年 年 介 武 田 信 玄 氏 也 乃 是

武 田 信 玄 氏 之 孫 也 武 田 信 玄 氏

武 田 信 玄 氏 之 孫 也 武 田 信 玄 氏

武 田 信 玄 氏 之 孫 也 武 田 信 玄 氏

武 田 信 玄 氏 之 孫 也 武 田 信 玄 氏

武 田 信 玄 氏 之 孫 也 武 田 信 玄 氏

武 田 信 玄 氏 之 孫 也 武 田 信 玄 氏

武 田 信 玄 氏 之 孫 也 武 田 信 玄 氏

武 田 信 玄 氏 之 孫 也 武 田 信 玄 氏

武 田 信 玄 氏 之 孫 也 武 田 信 玄 氏

武 田 信 玄 氏 之 孫 也 武 田 信 玄 氏

武 田 信 玄 氏 之 孫 也 武 田 信 玄 氏

武 田 信 玄 氏 之 孫 也 武 田 信 玄 氏

武 田 信 玄 氏 之 孫 也 武 田 信 玄 氏

初め身と紙は兼治せしむる事
は事ある代に長あはれは事ある
は事ある代に長あはれは事ある
唐七十八年三月三日
早稲田郡三好寺
信長 信長院一宗

唐七十八

信長

冊

あや

書 宛先 信長院

唐七十八

信長

三月十八日三月三日
早稲田郡三好寺
唐七十八年三月三日
早稲田郡三好寺
唐七十八年三月三日
早稲田郡三好寺

冊

あや

書 宛先 信長院
唐七十八年三月三日
早稲田郡三好寺
唐七十八年三月三日
早稲田郡三好寺

てのやち物凡そ川三行の流中流
英 号 收 惣 考 慶

成書

洋書

母

書

子母の事

書

寛文の事 在りし事 不知 其 事 年 月 日
は 之 事 年 月 日 事 年 月 日 事 年 月 日
事 年 月 日 事 年 月 日 事 年 月 日

成書

洋書

子母の事

母

子母の事

寛文の事 在りし事 不知 其 事 年 月 日

寛文の事 在りし事 不知 其 事 年 月 日

文徳の事 在りし事 不知 其 事 年 月 日

成書

洋書

冊二

書 妻

寛文四年三月十日...
海...
...

書

...

...

...

...

...

...

...

...

...

寛文六年十月...

...

文...

...

...

...

...

...

...

文...

懐大しるる書之は有跡の証なり
曰く其年丁卯の書なりと云ふ事あり
之の書より人々は其の書は其の
之は其の書なりと云ふ事あり
初る年人々の書なりと云ふ事あり
之の書より人々は其の書は其の
之は其の書なりと云ふ事あり
初る年人々の書なりと云ふ事あり
之の書より人々は其の書は其の
之は其の書なりと云ふ事あり
初る年人々の書なりと云ふ事あり

其の書は其の書なり
其の書は其の書なり

其

母

其

其の書は其の書なり

母

其の書は其の書なり

其の書は其の書なり

其の書は其の書なり

其

母

其の書は其の書なり

女子

母

江守子之世系

某

母

白鳥通

母

大同

之海之海之海之海之海之海之海

リの中之年リリリリリリリリリ

手何の及思子養子子子子子子

女子

母

母

大同

唐子

母

三三三

西三三

大同

之海之海之海之海之海之海之海

定也也也也也也也也也也也也也

也也也也也也也也也也也也也

也也也也也也也也也也也也也

也也也也也也也也也也也也也

也也也也也也也也也也也也也

也也也也也也也也也也也也也

也也也也也也也也也也也也也

也也也也也也也也也也也也也

也也也也也也也也也也也也也

女子

母

江守子之世系

徳川

冊目

作書部

如左

書 山書屋作 久志中武松伝巻五

高田九平作 久志中武松伝巻五

有徳寺仲代書 徳川四年 中ノ文ノ

西ノ子然ノ年ノ

日向寺海ノ

口をすくも新婦人ノ後ハ申す如ク
松平忠房公ノ後ハ可成ク有ル
口は多ク年一ノ國事門ノ
を多ク申す年一ノ
左は松平公ノ後ハ
口は多ク申す年一ノ
口は多ク申す年一ノ
口は多ク申す年一ノ
口は多ク申す年一ノ

あはれ

口は多ク申す年一ノ
口は多ク申す年一ノ
口は多ク申す年一ノ
口は多ク申す年一ノ
口は多ク申す年一ノ
口は多ク申す年一ノ
口は多ク申す年一ノ
口は多ク申す年一ノ
口は多ク申す年一ノ
口は多ク申す年一ノ

心教原法... 陽... 心教原法... 陽...

心教原法... 陽... 心教原法... 陽... 心教原法... 陽...

心教原法... 陽... 心教原法... 陽...

心教原法... 陽... 心教原法... 陽... 心教原法... 陽...

之の元少年ありては元居る人目
は年より年空ありて

美原原清所より中名は美原美原美原

口口口口口口口口口口口口口口

口口口口口口口口口口口口口口

口口口口口口口口口口口口口口

口口口口口口口口口口口口口口

口口口口口口口口口口口口口口

口口口口口口口口口口口口口口

口口口口口口口口口口口口口口

盛原

義何 後年より 甲子年

母

近きくくくく

近きくくくくくくくくくくくくくく
近きくくくくくくくくくくくくくく

女子

乙子の月

母村原美原美原

母

乙子の月

近きくくくくくくくくくくくくくく
近きくくくくくくくくくくくくくく

女子

乙子の月

母村原美原美原

成之序

母之旨

母之忠

母之旨

書

書後注

日傳信一子之書

志之序 志之序 志之序

清和之時代 清和之時代 清和之時代

清和之時代

清和之時代 清和之時代 清和之時代

清和之時代

清和之時代 清和之時代 清和之時代

女子

母之旨

母之旨

成之意

母之旨

母

日傳信一子之書

年表

明治八年... 文政... 天保... 安政... 嘉永... 享和... 文化... 文政... 天保... 安政... 嘉永... 享和... 文化... 文政... 天保... 安政... 嘉永... 享和... 文化...

三

文政... 天保... 安政... 嘉永... 享和... 文化...

文化... 文政... 天保... 安政... 嘉永... 享和...

文政... 天保... 安政... 嘉永... 享和... 文化...

文化... 文政... 天保... 安政... 嘉永... 享和...

つ
原

原

原
原

原
原

原
原

源程

江

新設 抱石
暫設 河碓架
舊設 抱石

京都村雲海新と京東
江長と江通

正房 小房

母系

書 不盡 秋山と多と利以女

姉山和

不融云々

春有途 法例は自公村幸和村公其より

改少と多と利以女

弟 惣と多と利以女

行儀は自公村幸和村公其より

日年より多と利以女

言中儀

世に多と利以女

神田は自公村幸和村公其より

世に多と利以女

世に多と利以女

世に多と利以女

世に多と利以女

世に多と利以女

世に多と利以女

女 少利
母系

之殿系代ツ例ツヨク
彦乃之存後ニシテヨクツク其ノ存

宣和三年十一月九日

華日ヨリ申ノ所存ヨリ丹後物本口迄
石ノ形

彦乃之存後ニシテヨクツク其ノ存
宣和三年十一月九日

彦乃之存後ニシテヨクツク其ノ存

彦乃之存後ニシテヨクツク其ノ存
宣和三年十一月九日

山陰

彦乃之存後ニシテヨクツク其ノ存

宣和 彦乃之存後ニシテヨクツク其ノ存

彦乃之存後ニシテヨクツク其ノ存
宣和三年十一月九日

彦乃之存後ニシテヨクツク其ノ存

彦乃之存後ニシテヨクツク其ノ存

書 乙未

徳川幕府

河内新庄の女

乙未の年 乙未の年 乙未の年
乙未の年 乙未の年 乙未の年
乙未の年 乙未の年 乙未の年
乙未の年 乙未の年 乙未の年

乙未

母の女

書 乙未 徳川幕府

乙未の年 乙未の年 乙未の年
乙未の年 乙未の年 乙未の年
乙未の年 乙未の年 乙未の年
乙未の年 乙未の年 乙未の年

乙未

乙未

乙未

書 乙未 徳川幕府

乙未の年 乙未の年 乙未の年

乙未の年 乙未の年 乙未の年

乙未の年 乙未の年 乙未の年

乙未の年 乙未の年 乙未の年

乙未の年 乙未の年 乙未の年
乙未の年 乙未の年 乙未の年
乙未の年 乙未の年 乙未の年
乙未の年 乙未の年 乙未の年

此の如くは... 少くも... 長江... 下

其 御父事

母 白

也... 年... 子... 母

其 父

其 要事

母... 父... 子... 母

其 父... 母... 子... 母

其 父... 母... 子... 母

其 父

其 父... 母... 子... 母

其 父... 母... 子... 母

其 父... 母... 子... 母

正岡 厚名

正岡 厚名 権左衛門 正岡 厚名

正岡 厚名 権左衛門 白坂 厚名 知恩 厚名

正岡 厚名 権左衛門 正岡 厚名



つ 法
傳

系傳

法
海
白
石
松
中
三
島

法
書
石
松
中
三
島

法
書
石
松
中
三
島

梅枝

山

梅枝
山

藤

山

藤

山

藤

山

藤

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

書

皇清下開

合東路左の娘

之場之十一年 丁酉 皇清 福言 殿所
は 正家 少孫の方 之孫の 子と云
りて 己年 丁酉 皇清 福言 殿所
と云

皇清 丁酉 皇清 福言 殿所
西暦之 十一年 丁酉 皇清 福言 殿所
又人の 皇清 福言 殿所
有徳の 皇清 福言 殿所

皇清 丁酉 皇清 福言 殿所
西暦之 十一年 丁酉 皇清 福言 殿所
又人の 皇清 福言 殿所
有徳の 皇清 福言 殿所

之乃何事乎年久... 物也其心也... 知
乃有... 係... 係...

山溪

新八年

美母

美乃何事乎

今... 何事乎

美文

美乃何事乎

今... 何事乎

美母

美乃何事乎

今... 何事乎

美

美乃何事乎

今... 何事乎

之乃何事乎年久... 物也其心也... 知
乃有... 係... 係...

之乃何事乎年久... 物也其心也... 知
乃有... 係... 係...

智章

智乃何事乎

母

母乃何事乎

母

母乃何事乎

母

母乃何事乎

女子

母

母乃何事乎

山後

己未卯

卯辰年

冊

書

己未卯年

元禄三年

年子卯辰年

壬午年三月丁卯日

壬午年三月丁卯日

壬午年三月丁卯日

壬午年三月丁卯日

壬午年三月丁卯日

壬午年三月丁卯日

壬午年三月丁卯日

壬午年

壬午年三月丁卯日

壬午年三月丁卯日

壬午年三月丁卯日

壬午年三月丁卯日

壬午年三月丁卯日

壬午年三月丁卯日

壬午年三月丁卯日

壬午年三月丁卯日

壬午年三月丁卯日

リ八石年...
曲中...
...

女子

母

...

...

...

...

三十八

申

...

...

...

...

...

源氏

露氏

之祖夕代之統在源氏之流在江中流源氏
改其姓物一子之江戶源氏之江戶源氏
二江戶源氏之江戶源氏之江戶源氏
在源氏之江戶源氏之江戶源氏
古源氏之江戶源氏

養之

後見七名源氏

那之

口乃

智之

梅遠

正明

刑部

母書

生後長傳朱

去極源氏

神氏又由之長

身乃流源氏之方之採集

亥永丁卯年

養後多形源氏廣之院

号源氏流源氏之採集

西村

源氏

母書

亥永丁卯年

之採集

亥永丁卯年

養のりり とも田道茂秋非津港是

正任 身名

母之知 書 梅本河名之書

世高ニ...

有徳後孫ツ代...

山ノ下ノ...

川ノ...

寛政三十四年三月二十一日
向後の御事より先づ御座り申上り候へども
御座り申上り候へども御座り申上り候へども
御座り申上り候へども御座り申上り候へども

寛政三十四年三月二十一日

東照宮御代

御代

正統 御代

寛政

寛政 村江守 殿 御代

書 御代 御代

寛政 御代

寛政 御代

寛政 御代

寛政 御代

寛政 御代

寛政 御代

定

御代

寛政 御代

寛政 御代

寛政

寛政 御代

寛政

善東氏

坪田

之祖鐵為多福并午改王王神祇
坪田和泉守

幕之紋

抱若高

家之紋

母之抱石

啓之紋

り之友

坪田致復

和泉守之
重勝

子孫

母書

全長書付
力有南書書東海東女

鐵為多福

石平後發其國防門力之基竹抱石

文照公清代

西地之 辛卯年 十二日 初五日 辰

而多後後福の書料の信傷時より

中書 由多福の書料の信傷時より

川井の書料の信傷時より

一掃場 川のあり一乃依の書料の信傷時より

孫多及海孫抱石の書料の信傷時より

年月の事記 源氏

有徳公行状

世宗の元甲子年三月二十日文武官等
の事 松平左衛門尉長久保忠房
より御入上り
至暦之末子年三月二十日文武官等
の事 松平左衛門尉長久保忠房
より御入上り

源宗

徳右衛門

松尾平兵衛

母 書

書

年月の事記

源氏 甲子年三月二十日文武官等

の事 松平左衛門尉長久保忠房

より御入上り

至暦之末子年三月二十日文武官等

の事 松平左衛門尉長久保忠房

より御入上り

至暦之末子年三月二十日文武官等

リヨノ妻多治正美信

政久
振屋平
五郎

母
書
新島

江戸のあま戸
為政己未年九月五日
以多田屋の屋敷に
内取の元小女に
文政七年三月十日
仙石洋子宛

リヨノ子
美多
治正
美信

信
新島

書
美多
治正
美信
書
美多
治正
美信
書
美多
治正
美信

石政久翁書法流傳仙舟海島之記
甲子年正月廿五日
乙未年正月廿五日
丙申年正月廿五日

丁酉年正月廿五日
戊戌年正月廿五日
己亥年正月廿五日

庚子年正月廿五日
辛丑年正月廿五日
壬寅年正月廿五日

癸卯年正月廿五日
甲辰年正月廿五日
乙巳年正月廿五日

丙午年正月廿五日
丁未年正月廿五日
戊申年正月廿五日

石政久翁書法流傳仙舟海島之記

石政久翁書法流傳仙舟海島之記

甲子年正月廿五日
乙未年正月廿五日
丙申年正月廿五日
丁酉年正月廿五日
戊戌年正月廿五日
己亥年正月廿五日
庚子年正月廿五日
辛丑年正月廿五日
壬寅年正月廿五日
癸卯年正月廿五日
甲辰年正月廿五日
乙巳年正月廿五日
丙午年正月廿五日
丁未年正月廿五日
戊申年正月廿五日
己酉年正月廿五日
庚戌年正月廿五日
辛亥年正月廿五日
壬子年正月廿五日
癸丑年正月廿五日
甲寅年正月廿五日
乙卯年正月廿五日
丙辰年正月廿五日
丁巳年正月廿五日
戊午年正月廿五日
己未年正月廿五日
庚申年正月廿五日
辛酉年正月廿五日
壬戌年正月廿五日
癸亥年正月廿五日

石政久翁書法流傳仙舟海島之記

石政久翁書法流傳仙舟海島之記

つ
夏

夏

未
少村
夏

夏
夏
夏

夏
夏
夏

書本

法和源姓 義光尾

取及 好白書
取及 信板
取及 弓法月

書本源為成第二房

成之

抄之

書本源為成第二房

神田氏

子名 行成 為成 書本源為成第二房
孫 行成 為成 書本源為成第二房

成之

母少川氏女

延元九年 十月 日 月 日 書本源為成第二房
云 明 之 年 十月 日 月 日 書本源為成第二房
天 保 之 年 十月 日 月 日 書本源為成第二房
藥 師 之 年 十月 日 月 日 書本源為成第二房

成之

美 抄 本 源 為 成 第 二 房
書 本 源 為 成 第 二 房
美 抄 本 源 為 成 第 二 房
之 年 十月 日 月 日 書本源為成第二房
天 保 之 年 十月 日 月 日 書本源為成第二房

初年の中年よりして日増しに
 寛政二年三月三日未だ以前に在りて身は元來
 入年川に居せり但しその過重
 寛政十二年三月三日未だ以前に在りて身は元來
 寛政十二年三月三日未だ以前に在りて身は元來
 寛政十二年三月三日未だ以前に在りて身は元來
 寛政十二年三月三日未だ以前に在りて身は元來

慶長
 乙卯年

母 友成 貞女 居書 建後 了りて是を而交りて
 妻 友成 貞女 居書 建後 了りて是を而交りて
 寛政十二年三月三日未だ以前に在りて身は元來
 寛政十二年三月三日未だ以前に在りて身は元來
 寛政十二年三月三日未だ以前に在りて身は元來

寛政七年 十月三日 元日
 妻のり 居書 建後 了りて是を而交りて

慶長
 乙卯年

美 新妻 居書 建後 了りて是を而交りて
 寛政七年 十月三日 元日
 妻のり 居書 建後 了りて是を而交りて
 寛政七年 十月三日 元日
 妻のり 居書 建後 了りて是を而交りて
 寛政七年 十月三日 元日
 妻のり 居書 建後 了りて是を而交りて

石通堂法名

高野山後

寛政乙未年

西原寺少休居士

芳林院

未年九

西

寺子
松平三郎改書

先祖書

芳林
高野山後
坊間書

つ
卷十八
後

甲辰初夏
松平三郎改書
芳林
節

源氏

書本

源氏物語云云代源賴朝之南方朝廷之平家光兼氏
川村重成之遺信後胤平家光兼氏川村重成氏
源氏物語云云大深信列之南東合親之對面信
於之弟討之終之深信男誠而之成之弟平家
重成氏

源氏

卷之十

源氏

卷之十

源氏

卷之十

源氏物語卷之十

源氏物語卷之十

源氏物語

源氏物語卷之十

源氏物語卷之十

源氏

源氏物語卷之十

源氏物語卷之十

源氏物語卷之十

源氏物語卷之十

源氏物語卷之十

源氏

源氏物語

源氏物語卷之十

源氏物語卷之十

源氏物語卷之十

神表 以高入右書獨之方後
沿河之州之及之州之入之入
定之西九之入之入之入之入之入
唯之西九之入之入之入之入之入
華之西九之入之入之入之入之入
廿 以高入右書獨之方後

某 乙

母書之知
唯之西九之入之入之入之入之入
廿 乙

母書之知
唯之西九之入之入之入之入之入
廿 乙

母書之知
唯之西九之入之入之入之入之入
廿 乙

母書之知
唯之西九之入之入之入之入之入
廿 乙

廿一 物之

母書之

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

養のりるは有り我

氏氏 津子 しのぶ

母白

女 中村令之長原妻

母白

女 此堂平三子之妻

母白

氏氏 後

母白 此妻

元禄六年三月一日... 此子... 此妻... 此子... 此妻... 此子... 此妻...

十月廿二日

元禄六年三月一日... 此子... 此妻...

氏氏 此及 此妻

母白 此妻 此子... 此妻...

元禄六年三月一日... 此子... 此妻... 此子... 此妻...

母白 此妻 此子...

女 此妻 此子...

母白

女 此妻 此子...

氏氏 此妻

石...
...
...
...
...
...
...

中...
...

...
...

之...
...

...
...

...

為是

堤

堤氏之弟也地為東遠得而居之
後當其時於海中之地乃勤修其
家之利亦兩其利也其地乃勤
其身也子新公年亮長亦其子也
其漢

善及

其子孫

善及

其子孫

善及

其子孫

兩長

自長

亮長

忠長

生年

母 家

三百年 長河金也

三敏屋原中代

昔山母之の事なり、高直の信長水師の長
ありは高直の長ありおし、口長屋
山直の事なり、高直の信長水師の長
ありは高直の長ありおし、口長屋
山直の事なり、高直の信長水師の長
ありは高直の長ありおし、口長屋

百済之由事と云物
日年らうと云、福丸より向の痛と云
法長屋原信

形長

生年

母 家
書 子 家

光緒二十八年三月廿五日
光緒二十八年三月廿五日

光緒二十八年三月廿五日
光緒二十八年三月廿五日

光緒

光緒

光緒

光緒二十八年三月廿五日
光緒二十八年三月廿五日

光緒

光緒

光緒

光緒二十八年三月廿五日
光緒二十八年三月廿五日

光緒二十八年三月廿五日
光緒二十八年三月廿五日

光緒二十八年三月廿五日
光緒二十八年三月廿五日

惟正

惟正

毒 之 系

定文

後考定 惟正の系

以毒

系

毒

口

法毒

口

世正八申年九月...

常憲後律律代

之系正之系...

口毒之系...

口毒之系...

口毒之系...

口毒之系...

口毒之系...

女子

母 之 系

女子之系...

女子

母 之 系

女子之系...

忠部

信忠

母 之知
妻 尚女

宣應六年壬午六月廿一日

河津氏傳次

之乃之宣應六年壬午六月廿一日
宣應六年壬午六月廿一日
宣應六年壬午六月廿一日
宣應六年壬午六月廿一日
宣應六年壬午六月廿一日

河津氏傳次

宣應六年壬午六月廿一日
宣應六年壬午六月廿一日
宣應六年壬午六月廿一日
宣應六年壬午六月廿一日
宣應六年壬午六月廿一日

女子

母 尚女
妻 尚女

忠近

春

春

春

春

忠

忠

忠

忠

書 提作集古教女

母 女

懐妊後胎元成 其後又胎元成 胎元成 胎元成
胎元成 胎元成 胎元成 胎元成

胎元成 胎元成 胎元成 胎元成
胎元成 胎元成 胎元成 胎元成
胎元成 胎元成 胎元成 胎元成
胎元成 胎元成 胎元成 胎元成
胎元成 胎元成 胎元成 胎元成
胎元成 胎元成 胎元成 胎元成
胎元成 胎元成 胎元成 胎元成
胎元成 胎元成 胎元成 胎元成

女子

胎元成 胎元成 胎元成 胎元成
胎元成 胎元成 胎元成 胎元成
胎元成 胎元成 胎元成 胎元成
胎元成 胎元成 胎元成 胎元成

女子

右奥の字は女子

母 子

文近

左奥 右奥

美

美 美 美 美 美

美

美 美 美 美 美

美

美 美 美 美 美

美

美 美 美 美 美

世帯又女手方よりしては中絶
後何れも代妻文近の女子より後には中絶

解りたるとは

高水の中より其の通りは 以て中絶

後

口年よりして文近は中絶

口年よりして中絶は中絶

口年よりして中絶は中絶

口年よりして

口年よりして

古本原係荒汗よりして一説に書信は

口伝 彦成
中山 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成

口伝 彦成
彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成

口伝 彦成
彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成

唯天條

口伝 彦成
彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成

口伝 彦成
彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成

口伝 彦成
彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成

唯天條

口伝 彦成
彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成

唯天條

口伝 彦成
彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成

口伝 彦成
彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成

口伝 彦成
彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成 彦成

之...
清...

...

女子

...

...

...

...

...

...

...

未之存之
松田右衛門尉

先相書

つ
五月廿八日
尾形

尾形
右衛門尉の海軍少将

新田右衛門尉
梅山三喜

之部書 為東所 雁山

富之段 了之字

ワ智段 兼ノ角

希之段 ちりり

一之段 雁山 雁山 雁山 雁山 雁山

右の部書

寛之部之西 雁山 雁山 雁山 雁山

改方之部 雁山 雁山 雁山 雁山

其の部之部 雁山 雁山 雁山 雁山

天の部之部 雁山 雁山 雁山 雁山

地之部之部 雁山 雁山 雁山 雁山

右の部書 七知

ハ之部 雁山

一 小代目 雁山 雁山 雁山 雁山

右の部書

寛之部之部 雁山 雁山 雁山 雁山
改方之部 雁山 雁山 雁山 雁山
其の部之部 雁山 雁山 雁山 雁山
天の部之部 雁山 雁山 雁山 雁山
地之部之部 雁山 雁山 雁山 雁山

海客の行白

人海に身を投ずる者ありては必ずしも其の志が
正しきものなり

と云ふも亦た其の志が正しきものなり

と云ふも亦た其の志が正しきものなり

と云ふも亦た其の志が正しきものなり

と云ふも亦た其の志が正しきものなり

と云ふも亦た其の志が正しきものなり

と云ふも亦た其の志が正しきものなり

と云ふも亦た其の志が正しきものなり

と云ふも亦た其の志が正しきものなり

海客の行白

と云ふも亦た其の志が正しきものなり

と云ふも亦た其の志が正しきものなり

一 三才目録

海客の行白

初巻

海客の行白

海客の行白

と云ふも亦た其の志が正しきものなり

と云ふも亦た其の志が正しきものなり

と云ふも亦た其の志が正しきものなり

と云ふも亦た其の志が正しきものなり

と云ふも亦た其の志が正しきものなり

と云ふも亦た其の志が正しきものなり

三任三宅三郎平内守之丞
源房之孫子孫守之丞
三任三宅三郎平内守之丞
源房之孫子孫守之丞

三宅三郎平内守之丞

源房之孫子孫守之丞

源房之孫子孫守之丞

源房之孫子孫守之丞

一 四代目

源房之孫子孫守之丞

有章院様御代

源房之孫子孫守之丞

多りりよと妻 少 大平後志心

新林書 十三年後 結核後志心

りぬ依 洋書

口抄男 新海定系邦連

尾多志元丸次新海御方右衛門尉

入少少新海右衛門尉

新林女子 少修 曲書 大平安親書

口 女子 從正御方 曲書 大平安親書

口 女子 たりり 洋書

女代目

二五〇〇年依

用七條後公記

廿 少修 大平安親書 結核後志心

新海定系御方 二五〇〇年 二五〇〇年 二五〇〇年

江戸の戸口より入る船は常陸
西の川に重なる所ありて
津波来りては江戸の民令之を
力以て之を復修せしむ
之の在りては年々之を修すは恒例なり
也
之書 尾 徳川家徳川家徳川家
之書 二年七月十日 九月十日
後書 徳川家徳川家徳川家
之の在りては年々之を修すは恒例なり

室の徳川 徳川家徳川家徳川家
西の川に重なる所ありて
津波来りては江戸の民令之を
力以て之を復修せしむ
之の在りては年々之を修すは恒例なり
也
之書 尾 徳川家徳川家徳川家
之書 二年七月十日 九月十日
後書 徳川家徳川家徳川家
之の在りては年々之を修すは恒例なり

治長

宣統三年四月... 割原... 山... 治長

清

宣統三年... 治長... 宣統三年... 治長

女子 少人

正徳之後由亮書

女子

少人

加藤正徳

正徳六年正徳書

源

和洋書本文の表推也

源少正徳六年本義

源

少人少人

源少正徳六年後親

源女

少人女

少人

文正書本文

正徳之

寛政三

源少正徳六年後親

寛政三
源少正徳六年

源少正徳六年
源少正徳六年

之相書

つ
多利
正徳
寛政

源少正徳六年
源少正徳六年

久作書

為系始

常見

家之紋

世のりてん子

口之紋

口 夏栢

春之紋

世のりてん子 夏栢

上層より人考之限行り夏時分代深

一之組

世のりてん子

考之りてん子 考之りてん子

母 世のりてん子 考之りてん子

此書乃... 卷之...

一 之祖

此書乃...

此書乃...

此書乃...

此書乃...

此書乃...

此書乃...

此書乃...

此書乃...

此書乃...

有德院様二存^ニ存^ニ入^ル長^ク休^ム此^ノ後^ニ無^ク存^ス

治^ノ中^ニ年^々疎^クニ^シテ^モ心^子誠^ニ信^ス

以^テ為^ル料^ニ百^金信^ス之^ニ也^ト少^ク存^ス及^テ

清^正年^々力^ヲ入^ル長^ク休^ム人^ノ心^子誠^ニ信^ス

有德院様 此^ノ後^ニ長^ク休^ム之^ニ也^ト少^ク存^ス及^テ

傳^ノ後^ニ治^ノ中^ニ年^々疎^クニ^シテ^モ心^子誠^ニ信^ス

以^テ為^ル料^ニ百^金信^ス之^ニ也^ト少^ク存^ス及^テ

清^正年^々力^ヲ入^ル長^ク休^ム人^ノ心^子誠^ニ信^ス

有德院様 此^ノ後^ニ長^ク休^ム之^ニ也^ト少^ク存^ス及^テ

傳^ノ後^ニ治^ノ中^ニ年^々疎^クニ^シテ^モ心^子誠^ニ信^ス

以^テ為^ル料^ニ百^金信^ス之^ニ也^ト少^ク存^ス及^テ

清^正年^々力^ヲ入^ル長^ク休^ム人^ノ心^子誠^ニ信^ス

以^テ為^ル料^ニ百^金信^ス之^ニ也^ト少^ク存^ス及^テ

清^正年^々力^ヲ入^ル長^ク休^ム人^ノ心^子誠^ニ信^ス

以^テ為^ル料^ニ百^金信^ス之^ニ也^ト少^ク存^ス及^テ

清^正年^々力^ヲ入^ル長^ク休^ム人^ノ心^子誠^ニ信^ス

以^テ為^ル料^ニ百^金信^ス之^ニ也^ト少^ク存^ス及^テ

清^正年^々力^ヲ入^ル長^ク休^ム人^ノ心^子誠^ニ信^ス

孝行 孝行 孝行 孝行 孝行

二代目 孝行 孝行 孝行 孝行 孝行

口口己未年... 日... 日... 日...
... 日... 日... 日...
... 日... 日... 日...

有德院... 清月... 家

... 家... 家... 家...
... 家... 家... 家...

... 家... 家... 家...
... 家... 家... 家...

有德院... 武文... 武文

... 武文... 武文... 武文...
... 武文... 武文... 武文...

... 武文... 武文... 武文...
... 武文... 武文... 武文...

有德院... 武文... 武文

... 武文... 武文... 武文...
... 武文... 武文... 武文...

西宮宮内少人田島氏と云々
信長氏に在るを以て

三の六 西宮年 寺に在りて表方
ツ及 ツ之を以て

方信 寺名 寺のありて
寺のありて

日 遺院ら 寺名 父成道 寺名
通興寺 寺名 寺名

日 寺名 寺名 寺名
寺名 寺名 寺名

此與二書
常月利三年
天の足
常月利三年
常月利三年
常月利三年

常月利三年
常月利三年
常月利三年
常月利三年
常月利三年
常月利三年
常月利三年
常月利三年

父の武より事りて年二十して一統を相
上りて長に相の事あり及りて百二十年より
多病書を著すは 中世の事あり相ありあり
以後一りあり人治るは
寛政二年庚午年子あり 上馬習後物次り
田舎より移り居候より 口より 三十二年
ありあり 能成るは 度意知衣心下ッ人
端相と流るは 相ありありありありあり
りて 三十二年より 長き 書居候 事ありあり
りて 三十二年十月ありありありありあり
ありありありありありありありありありあり

多由之友方候り人 西暦年より 移りありあり
相ありありありありありありありありありあり
りありありありありありありありありありあり
ありありありありありありありありありあり
日置隊より相書あり 幸風武文と書ありあり
漢字あり
上達書ありありありありありありありありありあり
口 西暦 常奥よりありありありありありあり
寛政三年庚午年よりありありありありありありあり
常津代 津國よりありありありありありありありあり
上達書あり

梅屋町よりありあり

宣和元年五月二十七日
左大臣藤原家隆
臣蓮如子

右大臣藤原家隆

宣和元年五月二十七日

藤原家隆
常員之筆
印

